

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773100827		
法人名	特定医療法人清翠会		
事業所名	まきグループホーム 1 階		
所在地	大阪市旭区生江2-14-24		
自己評価作成日	平成28年10月 20 日	評価結果市町村受理日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2773100827-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が自由に意見を述べ、話し合っ物事を決める環境作りに努めている。職員皆がそれぞれの意見を尊重し、納得した中で妥協点を見つけ仕事に取り組んでいる。入居者様に対しても同様に、入居者様の声に耳を傾け、少しでもご本人様の希望や要望に応えられるようなチーム作りにも繋がってきている。地域の行事に参加する事で地域の方との交流が深まっており、地域の方が入居者様の名前を覚えて声をかけて下さる事が増えている。職員と入居者様の笑顔がたくさん見られる明るいフロアを目指し、入居者様がゆったりと居心地の良い場所で安心して過ごして頂ける環境づくりを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者を中心に考えた暮らしとなるよう職員がどのようにサポートするかを常に意識し、個々の介護計画も豊かな暮らしの提供に向け作成し日々の支援に繋がっています。利用者の力を活かし洗濯物を干したり食器拭き等の家事をする方や毎朝庭に出ることを日課にする方がおり、安全で自然な日常生活が送れるよう職員間で連携しながら支援しています。また職員ミーティングでは管理職は参加せず意見を出しやすい雰囲気の中で業務改善や物品購入など様々な提案がなされ、職場環境を整え運営に活かしています。また地域との関係も良好で夏祭りへの参加や子ども会の子どもたちとの交流をはじめ、似顔絵や園芸等地域のボランティアの来訪、ホームの消防訓練に近隣の方の参加を得るなど、運営推進会議で共に話し合いながら地域との協力体制を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「保健、医療、福祉を通じて地域の皆様の健康で豊かな生活を支援します」と掲げている。入居者様も含めた支援を行っており、毎年品質目標を設定し申し送り時に読み上げ意識を高めている。半期に一度中間評価を行っている	法人の理念の基ホーム独自の理念及び方針を掲げ、それに沿って毎年品質目標を立て実践できるように取り組んでいます。毎朝唱和し利用者を中心に考えた業務であることを意識し、個々の介護計画も豊かな暮らしの提供に向け作成するよう努めています。今後見直しを行い職員が実践しやすい言葉で理念を作成したいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、回覧版や、運営推進会議で地域の情報をいただいている。地域のお祭りに出かけたり、行事に参加し地域の方と交流を図っている。子ども会の子どもさん達とも七夕などの行事に参加していただいている	地域の夏祭りに参加したり、地区の秋祭りでは自治会の店の手伝いをしたり利用者に参加し、地域の方々と交流しています。子ども会の子どもたちとは七夕飾りやクリスマスにおやつ作りを一緒にしています。また似顔絵や園芸等地域のボランティアに来てもらったり、以前実習生であった方の音楽セラピーの来訪もあり交流を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様と職員と一緒に地域の店や行事に出掛けたり、地域の方に当施設の行事にも参加して頂く事で地域の方々にご理解とご協力を取り図れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し地域、包括、家族の方に活動状況を報告している。ご意見をいただき活用するようにしている。地域の情報もいただきイベントにも参加させていただいている	運営推進会議は自治会顧問や副会長、子ども会副会長、家族等の参加の下、隔月に開催しています。ホームの活動や行事、運営についての報告を行い、意見交換をしています。菜園活動について等参加者から良い評価をもらったり、地域の行事の情報を得る機会になっています。ホームのパンフレットを作成する際や消防訓練の方法についてアドバイスをもらうなど、得られた意見を運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度に関しては旭区役所の介護保険課の担当者に相談をすることも、事故が発生したときは行政に届け出を行い対策についても相談しアドバイスをいただく機会がある	介護保険の手続きなどは事務職員が役所に出かけ、運営上の問い合わせや生活支援課への相談等はホーム長が直接行政に聞いています。年度初めのグループホーム連絡会に市職員の出席があり、情報交換をしたりアドバイスをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施し、どのような事が身体拘束となるのかから説明をして、職員の理解を深めることができるように取り組んでいる。参加できなかった職員へは資料を配布し自身のケアの内容を振り返りをするようにしている	少なくとも年に1回は虐待及び身体拘束についての研修を行い、職員全員にレポートを提出してもらい理解できるようにしています。利用者の行動を止めるような言葉掛けの無いよう注意し、玄関のみ鍵をかけていますがフロアの入り口やエレベーターにも施錠はせず寄り添い、時には一緒に外に出ることもあり、拘束感の無い暮らしを支援しています。	

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、職員の理解を深めることができるように取り組んでいる。通報義務の必要性も伝えている。参加できなかった職員へは資料を配布、全員の職員自身が振り返りができるようなレポート形式にしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階で該当される入居者様はおられないが、今後に向けて活用できるよう所内研修や所外研修の場で学習の機会を得ている。また参加できなかった職員は研修の資料を閲覧している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族様、またはご本人に内容を説明を行っている。その際、重要事項説明書等を事前にお渡しし通覧をお願いし、不明な点に関しては、ご連絡を頂き説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では懇談会を実施し、参加された家族様から一言お話をさせていただくようにしている。参加されなかった家族様にもアンケート実施している。アンケートにて得られた意見に関してはすべてに回答をしている	年に4回ホームの便りを送ったり家族の来訪時には利用者の様子を伝え、面会の帰りには必ず玄関まで見送り希望や意見を聞いています。また年に2回行う家族会ではフロアごとの懇談会を行い、アンケートを記入してもらい意見や要望を出せるように取り組んでいます。レクリエーションについての意見をもらい、レクリエーションを介護計画に盛り込んだり増やしていけるように検討する等、得られた意見をサービスに反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフのみが参加する職員ミーティングを定期的開催をしている。全員が率直な意見を出すことができるように事前に議案を募っている。話し合われた内容は運営会議で検討し職員に返している	職員ミーティングでは管理職は参加せず、意見を出しやすい雰囲気の中で業務改善や物品購入など様々な提案がなされ、職場環境を整え運営に活かしています。案件によっては法人の運営会議に諮っています。管理者との面談を年に1度、主任等の面談を年に2度行うほか、個々の職員の様子を観てコミュニケーションを図り思いや意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内にストレス等に対する相談窓口が設けられている。過度な業務で残業にならないよう配慮し、面談の機会を持つなどして職員個々の職場環境改善に努めている。職員ミーティングでは職員の困り事などの意見の吸い上げが行えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した際、学術賛助金が年に1回、全員の職員に支給される。法人内・施設内外の研修で、職員個々に見合った研修があれば個別に声を掛けるように配慮し、業務として参加できるように調整している		

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークの勉強会や旭区内でのグループホーム連絡会に参加することで情報交換や勉強の場となっている。可能な限り全員の職員が順番に参加できるようにシフトを配慮している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が直面している問題や状況の本質等を理解する為に、できるだけ入居前にアセスメントを行っている。また各職員が関わりの中で得た情報を早急に話し合い共有する事でご本人との信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも詳しく入居前にアセスメントを行っている。時間の許す限り、お話しのお機会を持つようにして、お互いの理解を深めていけるような関係作りを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や入居者様のお話をよくお聞きした上で今、何に困っておられ、どのような支援を必要とされているかを判断し出来るだけ希望に添えるような対応に努めるが、当施設で支援できない場合はご説明し最善の方法を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重しながら、出来ることは行って頂き、できない所は職員が少し援助する事で行っていただけるような対応をしている。職員と入居者様が一緒に楽しめる日常が過ごせるように取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時だけに限らず面会時などにも家族様にご要望をお聞きするようにしている。共に支え合う為に、ご本人様の近況を家族様に随時報告することで、ご本人様の状態を理解して頂く様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やご本人の意向に沿えるように聞き取りを行い、馴染みの理容店やスーパー等にへ出かけていただくようにしている。近くに住んでおられた方が手土産を持って訪ねてこられ居室にて楽しい時間を過ごされることもある	以前近隣に住んでいた方等の来訪があり、居室でゆっくり過ごしてもらえるようお茶を出すなどの配慮をしています。家族と一緒に墓参りや理容店等に出かける方がいたり、個別支援で外食や寺などの馴染みの場所へ行く方もいます。地域の祭りに出かけた際には知人から声をかけてもらうこともあります。希望があれば年賀状を出すための支援も行っています。	

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話の内容やその方々の表情等に留意し円満なコミュニケーションが図れるように配慮している。居室で過ごされる時間が長い方は、職員がお声を掛けてフロアに出てきて頂くような機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去されたご連絡を頂いた場合、お通夜や葬儀に参列させて頂いている。また退去された後、ご家族様にお手紙をお出ししている。その後も、ご連絡等が有ればご相談や支援をさせて頂くが、特にこちらからの働きかけは行っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望は基本的にはご本人にお伺いしているが困難な場合は家族様に聞き取りを行いご本人の思いに可能な限り寄り添えるようにしている。ケアプランに反映できるようにカンファレンスを行い話し合いをしている	入居時には以前利用していたサービス事業所や病院からの情報を得たり、本人や家族と面談し生活歴や趣味、好み等を含め意向や思いの把握しています。入居後は日々の関わりの中で得られた些細な情報も記録や申し送りで共有し、意思疎通が困難な方には更に情報を整理したり会議で本人本位に検討し思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人や家族様にお尋ねするようにしている。入居後も思い出されたり、ご本人の言動で気づく事もあるので、継続して情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の言動や表情等の気づきを介護記録に記載し職員間で情報を共有することで現状把握ができるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行うときは全員が参加できないためコメントシートを作成し、職員個々の意見を書くようにしている。モニタリングの時にも家族様のご意見を伺うようにしている	利用者の思いや家族の意向、アセスメントを基にサービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。入居時には暫定の介護計画とし1か月程で見直し、以降6か月毎に更新しています。計画にそって日々記録し、モニタリングは毎月計画作成担当者が行い、3か月毎に会議で職員間で話し合い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいます。見直しに当たっては事前に家族の意向を聞き、医療情報も確認し計画に反映するようになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護日誌を記入している。気づきや工夫なども記録に残す事で職員間で情報が共有でき介護計画の見直しに繋がっている。問題が生じた時は直ぐにカンファレンスを行うようにしている		

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が受診同行できない時は管理者や職員が対応している。必要物品の購入、区役所へのオムツ申請の手続きや介護認定調査の書類記入・投函、入院された際の手続きや衣類の洗濯も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と連携し避難訓練を行っている。地域の盆踊り、ふれあい喫茶、防災訓練などの催し物に参加され楽しんでおられる。民生委員の方がお持ち下さった季節の花や絵手紙を飾らせて頂き入居者様に喜んで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけの医師との継続を希望されるか確認を行っている。ご本人や家族様が希望された時はかかりつけ医に受診をしていただいたり、個別に訪問診療を受けていただいている。体調不良時はかかりつけ医と職員とが連絡を取れるような体制にしている	入居以前のかかりつけ医の継続ができることも説明し、継続している方は家族が受診支援を行い書面で情報提供しています。協力医は月に3回の訪問診療と状況の変化に合わせても往診してもらっています。管理者が看護師であり日々の健康管理や医療との連携が図られ、適切な医療が受けられるよう体制を整えています。2件の訪問歯科医から希望を選んでもらい口腔ケアや治療を受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、職員は入居者様の変化に気付いた時、すぐに報告ができる環境である。24時間の連絡体制がある、その都度相談や指示を受けることができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内外の病院であってもサマリーを作成し、面会を行いご本人が安心して治療を受けることができるようにサポートしている。家族様、医療機関とも連絡を密に行いながら可能な限り早期退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化指針、看取り指針に基づき説明を行っている。延命処置が必要な時の意思確認書も頂いている方もおられる。終末期を迎えるにあたり、どこでどのように過ごされたいか、ご本人や家族様と医師と十分に話し合いを行っている。	看取り支援についてのマニュアルを整備し研修を定期的に行い、本人や家族の意向にそって看取りの支援もできる体制があります。入居時に指針にそって説明し意向を確認し、重度化した場合には医師から説明を受け家族と話し合い、改めて看取り支援について介護計画を作成し家族の協力を得ながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて所内研修を全ての職員が受けている。緊急時対応マニュアルと入居者様個々の対応についてのマニュアルがあり職員は熟読しており、また直ぐに見れるように掲示している		

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の防火訓練は夜間を想定し定期的に行っており、地域の方にも声をかけさせていただき参加していただいている。運営推進会議の場でも話し合いを行っている。近隣の小学校で行われた地域の防災訓練に入居者様にも参加していただいた	隣接する施設と合同で夜間を中心とした消防訓練を年に2回実施しています。自治会の役員から協力に向けて夜間でも連絡可能であるとの言葉をもらい、訓練には近隣の方の参加を得ており、運営推進会議でも話し合いながら地域との協力体制を築いています。ホームとしても水などの備蓄も準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月接遇チェックシートで言葉使い、声のトーン、プライバシーの保護に関して自己チェック、主任がチェックを行っている。不適切な場合はコメントを記入し注意を促している	入職時にプライバシーや人格を尊重した対応について丁寧に伝えています。利用者との関係性に合わせ親しみのある言葉遣いを心がけ、毎月接遇チェックシートで個々の対応を振り返ったり、不適切な対応が見られた時にはその都度注意しています。希望があれば同性介助も行いプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の要望を常にお聞きするよう心掛けている。ご自身で希望を発せられない方は日頃の様子から希望をお察するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、ご本人の希望に添った支援が行えるように努めている。一日の流れの中で食事やレク活動、お手伝いのお声掛けをするが無理強いはせず本氏のペースに合わせた対応を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけご本人様の好まれる衣類を着て頂くように一緒に相談しながら更衣を行っている。整髪や整容がご自身で出来ない方は職員が出来ない所を支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や盛り付け、食器拭きも入居者様にお手伝いをお願いしている。同じテーブルで可能な時は一緒に食事をしている。時々外食に出かけて頂き違う雰囲気を感じて頂いている	注文した食材が毎日届きフロアごとにメニューを考え、利用者にも盛り付け等に携わってもらい食事作りをしています。職員も同じ食卓に着き会話や介助もしながら一緒に食べ和やかな食事の時間となっています。ホットケーキやふかし芋などのおやつを手作りしたり、庭で採れたトマトや茄子が食卓にあがることもあり、食べることを楽しめるよう支援しています。1~2か月毎に回転寿司やお好み焼き、ファミリーレストラン等に外食に出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排尿に関しては個々に排泄状況をチェックしている。可能な限りトイレで排泄して頂くように表を見ながらトイレ誘導を行っている。排便は排便チェック表にて毎日確認を行い申し送り時に伝えている		

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと見守りを行っている。介助が必要な方は職員が歯ブラシ・スポンジブラシ・口腔用ガーゼで口腔内のケアを行い、義歯は定期的に義歯洗浄剤を使用している。また訪問診療の歯科衛生士に必要な場合は指示を受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては排泄チェック表を活用し個々の排泄状況を把握できるようにしている。可能な限りトイレで排泄して頂くようにしているがご本人が尿意を感じられるまで様子を見ることもある。排便は毎日確認を行い申し送りの時に伝達をしている	個々の排泄状況を記録に残しパターンを把握し、各居室にトイレがあり自身のタイミングに合わせてトイレで排泄できるように支援しています。トイレに行きやすいようにベッドの配置を考えたり、手摺を設置することもあります。会議や日々職員間で情報を共有しながら支援の仕方を検討し、パッドなどの排泄用品を選んだり布の下着で過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記入を徹底し、申し送りでの伝達を行っている。起床時に水や牛乳の提供、多めの水分摂取、献立には乳製品・食物繊維の多い食材を提供している。必要に応じて腹部マッサージも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助量の多い方の入浴に関しては2人介助で安全に浴槽内に入って頂けるように調整を行っている。希望を確認しながら同性介助を行い、入浴がお好きな方はケアプランに取り入れて実施しているが時間の希望に関しては希望に添えない時もある	入浴は3日に1回を目処に午後の時間に入ってもらえるように支援し、希望や状況に応じて毎日の入浴にも対応可能です。利用者の好みの石鹸やシャンプーを持ってきてもらったり、皮膚の弱い方には低刺激のシャンプーを準備する等個々に合わせた対応をしています。拒否される方にはなぜ入りたくないのかを考えたり、タイミングや声を掛ける職員を変える等、無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の個々の生活習慣や心身の状態、ペースに合わせ休息や睡眠がとれるよう配慮している。夜間は無理な就寝を勧めず温かい飲み物の提供やテレビを観たり、雑談を交わす事で本人の心情やペースに合わせた支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更は内服変更伝達ファイルや申し送りノートに記載、申し送りで伝達、その後の様子は日誌に記録、処方箋を個人ファイルに綴り、情報の共有を図っている。身体症状に変化があれば管理者に直ぐ報告し指示を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力を考慮して洗濯や食器拭きなどの家事をお手伝いして頂いている。歌が好きな方は歌を唄って頂ける機会を作るようにしている。買い物や食べたい物、お墓参りなど本人が希望されることを個々に可能な限り提供するように支援している		

まきグループホーム(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出計画が有る時には本人様の興味のある所に行っていたるように配慮している。地域のお祭りに参加した時には地域の方も協力してくださっている。長距離での歩行は困難な方が多く、車椅子が必要となり、職員配置の状況により一度に外出していただける方に制限がある	年に2回程は利用者に行きたい場所を聞き、歴史博物館や動物園などに分かれて外出行事を行っています。初詣に行ったり、桜や菖蒲の咲く頃には少人数で交代で見に出掛けています。人員体制がある時には散歩に出かけていますが、日常的には庭に出たり隣接する施設にマッサージを受けに行く等、外気に触れる機会を作っています。家族と散歩に出かける方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持されている方もおられる。ご自身で買い物が出来るよう見守る事で自信や意向、自主性に配慮している。お金をお預かりしている方については職員が本人の希望に応じて購入を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で書ける方には年賀状や暑中見舞いをご家族様に出して頂くように支援している。携帯電話をお持ちの方は自由に掛けて頂いている。お持ちでない方は1階の公衆電話からかけて頂ける様に見守りとお手伝いを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には月毎の皆様の生活の写真や、又塗り絵や算数ドリルを掲示させて頂き、職員と見ながら談笑したり、季節の花を机に飾り季節感を感じて頂けるようにしている。	各フロアの利用者の生活状況に合わせてテレビの位置やテーブルの配置を考え、少人数で過ごせるソファの設置や利用者が歩くときに支えられるように家具を置くなどの工夫をしています。季節を感じられるように利用者と一緒に貼り絵などで壁絵を作り掲示したり、生花やクリスマスツリー、鏡餅などを飾っています。毎日丁寧に清掃を行い、加湿器付き空気清浄機を置き温湿度管理にも配慮し、快適に過ごせる空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は入居者同士の相性を考慮したものとなっている。座席の移動を希望された時は都度、ご希望に添うように移動して頂いている。他階に気の合う方がおられる方には両方の居室を歩き来して楽しんでおられる。テレビをご覧になりたい方はテレビ前に移動されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものがあることでご本人が安心して暮らして頂けるよう、自宅で使用されていた仏壇や三面鏡等持ってきていただいている。お部屋でゆっくりと本を読まれたり、テレビ観賞などされる方は家族様と相談し机や椅子などを準備していただいている	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうように伝え、タンスや椅子、テレビ、三面鏡、大切にしている仏壇などを持って来られ本人や家族と配置を一緒に考えています。また、移動しやすいように平行棒を設置している方がいたり、ぬいぐるみや好きな動物等の写真を飾り、その人らしい居室となっています。利用者と一緒に掃除をし清潔を保ち、希望があれば電話を設置したり畳を敷くことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒再発の危険がある方に対して、夜間は手すり替りの椅子や平行棒を設置したり、居室内の壁角に衝撃を和らげる為のクッションをつける等して、個々の方の状況に合わせた工夫を行っている		